

再評価結果（令和3年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：前佛 和秀

事業名 高規格ICアクセス 一般国道256号 高富バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 岐阜県	
起終点 自：岐阜県山県市佐賀 至：岐阜県山県市伊佐美		延長 3.8 km	
事業概要 一般国道256号高富バイパスは東海環状自動車道山県ICへ直結する道路であり、東海環状自動車道と連携した広域ネットワークの形成、バイパスの整備による現道の渋滞緩和、円滑な交通の確保を目的とし、岐阜県山県市佐賀から岐阜県山県市伊佐美までの延長3.8kmを整備するものである。			
H8年度事業化	S58年度都市計画決定	H8年度用地着手	H9年度工事着手
全体事業費	約155億円	事業進捗率	約88% 供用済延長 2.7 km
計画交通量 11,500～30,200台/日			
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.4	総費用 (残事業)/(事業全体) 23/225億円 事業費：22/224億円 維持管理費：1.0/1.9億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 166/324億円 走行時間短縮便益：147/310億円 走行経費減少便益：16/8.8億円 交通事故減少便益：4.0/5.3億円
	(残事業) 7.2		基準年 令和2年
感度分析の結果 (事業全体) 交通量：B/C=1.3～1.5(交通量±10%) 事業費：B/C=1.3～1.6(事業費±10%) 事業期間：B/C=1.1～1.9(事業期間±20%) (残事業) 交通量：B/C=6.4～7.9(交通量±10%) 事業費：B/C=6.8～8.2(事業費±10%) 事業期間：B/C=6.8～7.5(事業期間±20%)			
事業の効果等 ① 東海環状自動車道山県ICへのアクセス向上 ・東海環状自動車道山県ICへ直結する道路であり、アクセス性の向上による走行時間の短縮が期待される。 ② 渋滞緩和による円滑な交通の確保 ・バイパスの整備により、通過交通と地域交通が分離され、交通渋滞を緩和し円滑な交通の確保につながる。 ③ 災害時に有効に機能するネットワークの確保 ・緊急輸送道路の整備により、災害医療拠点や広域防災拠点までの走行時間の短縮が期待される。			
関係する地方公共団体等の意見 山県市から、東海環状自動車道山県ICと連携し、広域的な地域間の物流や交流を促進、沿線地域の安全・安心暮らしを支え、地域発展に資する極めて重要な道路であるとともに、市の幹線道路として、沿線住民の生活を根底から支える重要な道路であることから、早期の整備促進による経済の活性化と安全の確保を要望されている。			
事業評価監視委員会の意見 ・事業主体の対応方針（案）「継続」を了承する。			

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・ 東海環状自動車道関広見 IC～山県 IC間の開通 (R2.3)

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・ 用地取得率：約76%、事業進捗率：約88%

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・ 引き続き、早期開通に向けて事業を進める。

施設の構造や工法の変更：盛土材の有効利用

- ・ 他工事との工程調整による建設発生土の有効活用や、新技術、新工法の積極的な活用により、着実なコスト削減に努める。

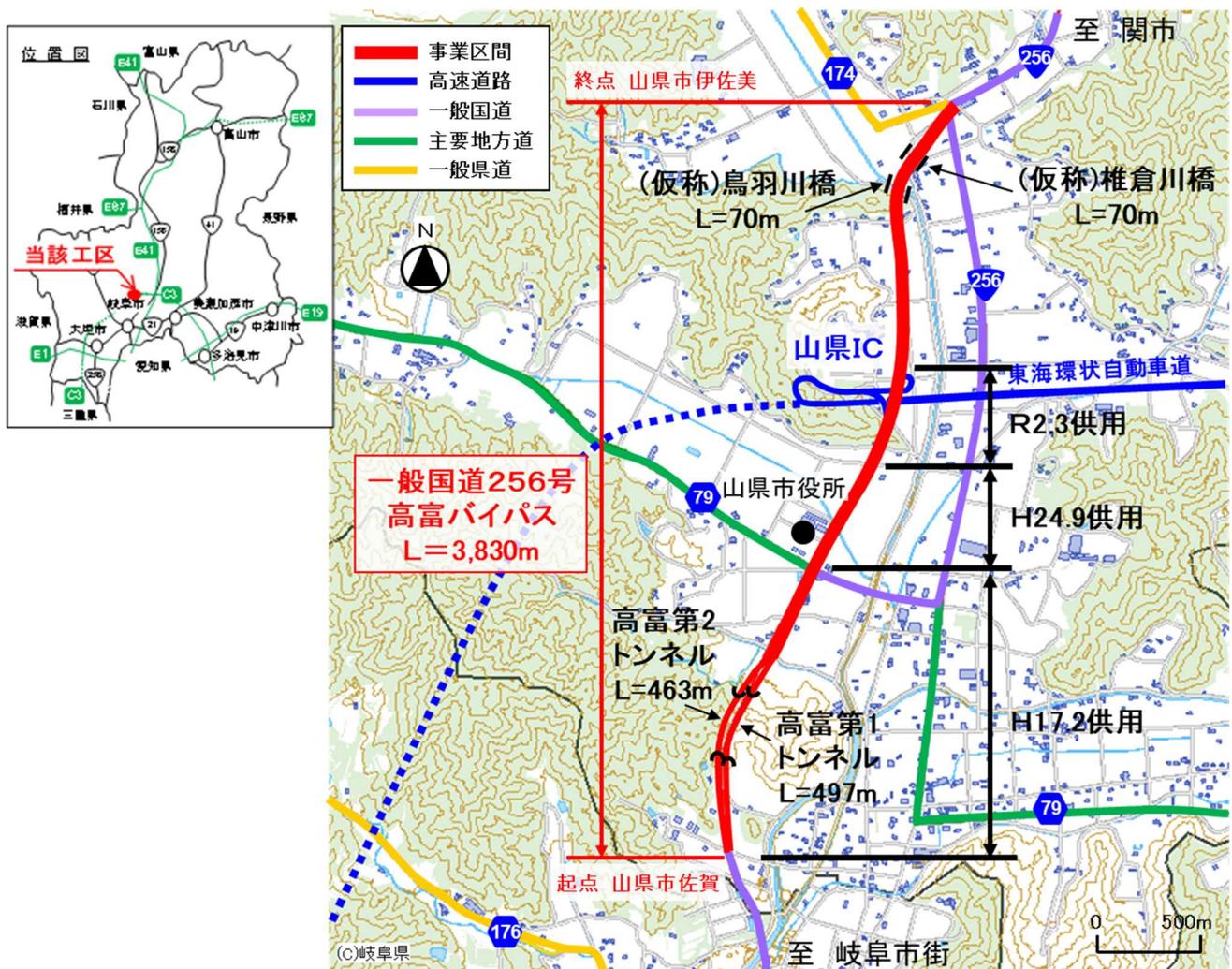
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

- ・ 事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。